

茨城県図画工作・美術教育研究部研究調査委員会 授業実践研究報告（令和元年月）

研究テーマ	主体的に取り組める学習課題の設定や指導方法の工夫 ー中学校2学年「名前を刻もう！～篆刻～」の実践を通してー
-------	--

坂東市立南学校 教諭

I 研究テーマについて

中学校学習指導要領解説の第2学年及び第3学年の内容A表現（1）イ（ア）「構成や装飾の目的や条件などを基に、用いる場面や環境、社会との関わりなどから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を得ること」である。どのような場面でデザインが社会や環境、人々と関わることができ、社会や環境をより豊かに変えていくことができるかを考えるなど、構成や装飾の目的や条件とも照らし合わせてより客観的な視点から生徒自らが強く表せるようにすることが大切である。本研究では、他者に伝わりやすいデザインとは何かを改めて認識させ、生徒がより主体的に表現に取り組める学習課題の設定や指導方法の工夫を図った。

II 研究の実際

1 題材名 名前を刻もう！～篆刻～

2 題材の目標

- 篆刻の文字に興味をもって制作に取り組むもうとする。 (関心・意欲・態度)
- 篆刻の字典から気に入った字を選んだり、独創的な外形のデザインを考えたりすることができる。 (発想や構想の能力)
- 印材の特徴を考えながら印刀や金ヤスリを使用し、深みのある表現をすることができる。 (創造的な技能)
- 友人の作品を鑑賞し、その良さを見つけることができる。 (鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 児童（生徒）の実態

平成30年7月11日実施（29人）

篆刻制作に対して、興味や関心がありますか？

○とてもある 13名

理由 石を削るのが楽しそう、美術が好き、おもしろそう

○少しある 11名

理由 立体を作るのが好き

○あまりない 2名

理由 厳くて削るのが大変そう

○ほとんどない 3名

理由 美術が苦手、アイデアが浮かばない

本学級の生徒は、まじめに取り組む生徒が多く、話を聞く姿勢も良い。美術が得意な生徒、苦手な生徒、それぞれがきちんと仕上げようという気持ちもあり、制作に熱心に取り組むことができる。以前に行ったアンケートでは、描くことに苦手意識をもつている生徒が多くみられた。美術に対して意欲はあるが技術が伴わず、制作者として納得の

できない作品になってしまった生徒も少なくない。今回の課題は、描くことに苦手意識をもっている生徒にも興味や関心をもつことができる題材であり、意欲的に取り組むことができるよう支援する。印鑑づくりという根気のいる作業を行うことで、最後までやり遂げる達成感を味わわせたい。

(2) 題材観

本題材は一つの題材の中に、彫刻やデザイン、鑑賞の分野が複合的に含まれており、生徒にとっては興味深い題材といえる。印面の平面表現としてのデザインの分野、外形（手に持つ所）の立体表現としての彫刻の分野など中学校の美術学習の総合的な題材として適している。また、石という手応えのある素材を根気強く彫ることで制作に取り組む姿勢を身に付け、仕上げたときの成就感・満足感を得られるものと考え、本題材を設定した。

(3) 指導観

本題材を通して、効率的に作業ができるよう、基本的な印面デザインや持ち手のデザインの参考作品を提示する必要がある。印面制作では、陽刻・陰刻のどちらかで制作するか、自分の名前・名前どちらにするか、名前をどの位置に配置するか、枠や装飾をつけるかなど、多くの選択を迫られる。そこで、多種多様な参考作品を多く提示することで、思い浮かんだアイデアと同じ方向性の作品を参考にさせ、さらにオリジナリティを加えるようにさせたい。印鑑の外形制作では、アイデアを考える際に正面図は容易に考えられるが、側面図や上面図がどのような形になるかが想像できない生徒が多い。3次元的に作業ができるよう、外形を制作するうえでの投影図などの基本を明確に提示していく必要がある。そこで、印面のデザインや外形のアイデアを考えるにあたり、制作のポイントとなる点を参考作品を見ながら提示していく。柔らかく取り扱いやすい高麗石は、簡単に形を成形させることができるので、自由な発想で多くのアイデアを考えさせ、達成感を味わえる作品を作らせたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
篆刻に対して関心をもち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり、材料や用具の特性を生かしたりしようとする。	自分の名前をもとにアイデアを広げ、印の特性を考えながら、豊かで創造的な表現の構想を練ることができます。	素材の特徴を理解し、用具の特性を生かし、創意工夫して美しく創造的に表現することができます。	他者の作品から印の特性を生かした表現や、用途を考えた持ち手のアイデアに、良さを認め合いながら鑑賞することができる。

5 指導と評価の計画（14時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ④	篆刻についての基本的な知識を身に付ける。	・篆刻に関心をもち、陽刻・陰刻の違いを理解しようとしている。 関【観察】
	名字・名前のどちらかを選び、印面のデザインを構想する。	・自分の個性を生かして、楽しく個性的なデザインを考えることができる。 想【観察・ワークシート】
	印面制作をする。	・削り方を場に応じて使い分けながら、ていねいに彫り進めていくことができる。 創【観察・作品】
第2次 ⑨	持ち手の参考作品を鑑賞し、自己のアイデアを考える。	・持ちやすさや押しやすさなども考慮したデザインを考えることができる。 想【観察・ワークシート】
	持ち手部分の制作をする。	・デザインに合わせた削り方で彫り進めることができる。 想【観察・作品】 ・細部や仕上げまで、ていねいに制作することができる。 創【観察・作品】
第3次 ①	完成した印面を押印し、友人の印面と持ち手を鑑賞する。	・押印した印面や、持ち手部分の造形的な形など、相互の良さを認め合いながら鑑賞している。 鑑【観察・ワークシート】

6 指導の実際

(1) 第1次

① 篆刻についての基本的な知識を身に付ける

篆刻の歴史の説明や、印の種類（陽刻と陰刻）について説明した。昨年の篆刻の授業で、陽刻を行う予定なのに下書きの線が細く、そのまま転写した線で削り始める生徒がいたので、陽刻と陰刻の制作方法の違いを多角的に解説し、陽刻を選択した生徒には下書きの時から太字で書かせるように指導した。

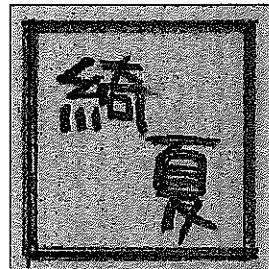


図1【斜体のデザイン】

② 名字・名前のどちらかを選び、印面のデザインを構想する

篆書体は使用せず、普段見慣れている常用漢字を使ってアイデアを考えさせた。参考作品を提示して、縦書き・横書きだけではなく、斜体で表現する方法も紹介し、独自性のあるデザインを考えるように促した。

③ 印面を制作する

基本的には印刀を使用して削らせたが、細部にはニードルを使用させた。陽刻の注意点として深く削りすぎない、凸の部を山形にして強度を出す、陽刻・陰刻共の注意点として線の太さが一定になるように促した。制作の進行具合や削り残しを

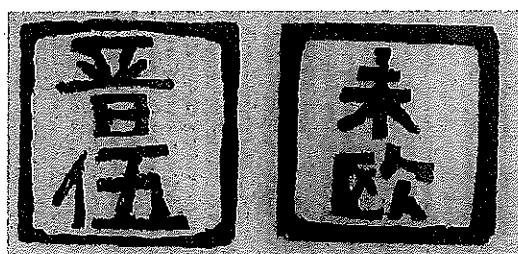


図2【試し押し】

確認するために押印させた。

(2) 第2次

① 持ち手の参考作品を鑑賞し、自己のアイデアを考える

外形の作品例を提示し、作品制作をするうえでのイメージを捉えられるようにすると共に、効率的に作業ができるよう、外形を制作するうえでの投影図などの基本を明確に提示した。投影図の作成に関わる要点、①前面図と側面図では図が異なること、②外形のデザインが印面に干渉しないように印面に厚みをつけること、③持ちやすさや押しやすさも考える、④石の強度を考えてデザインする、等を提示したことで、立体にしたときの形を意識した投影図を描けるよう工夫した。

また、持ちやすさや押しやすさを踏まえた作品と、装飾美に観点を置いた作品を参考作品として提示し、持ちやすさや持ちにくさはどのような形状の違いによるものなのかを視覚や触覚などで感じられるようにした。実際に成形された印を活用することで、写真資料では分からぬ触覚での感覚を感じさせることができた。生徒が参考作品に触ったときに「これは持ちやすい」、「こっちは持ちにくい」などの感想があった。このような生徒の気付きやつぶやきをきっかけに生徒全体の授業に向かう姿勢が良くなり、導入の雰囲気作りの大切さを実感することができた。

② 持ち手部分の制作をする

自らデザインした形状に合わせて、ノコギリを使用して大まかな形に成形させた。作業をする際には印面部分に刃物が接触して印面を破損しないように、削り進めるよう指導した。曲線の多いデザインの生徒には、自分のイメージした形状に近づけるよう、触覚的に形状を把握するために紙やすりを多用させた。

また、直線の多いデザインの生徒には、長い直線の部分などでは、印刀を定規に当てて真っ直ぐに削るように促した。細部の加工や、表面をきれいに整える耐水ペーパーでの仕上げなど、生徒の技術力に合わせてやり方を変えて指導し、各自の能力の範囲内で満足のいく作品が仕上がる様にした。

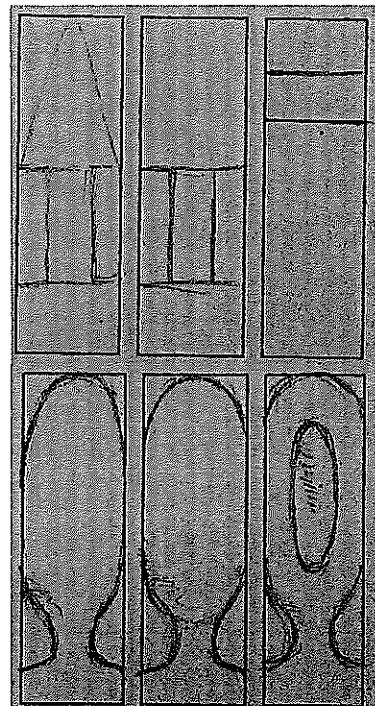
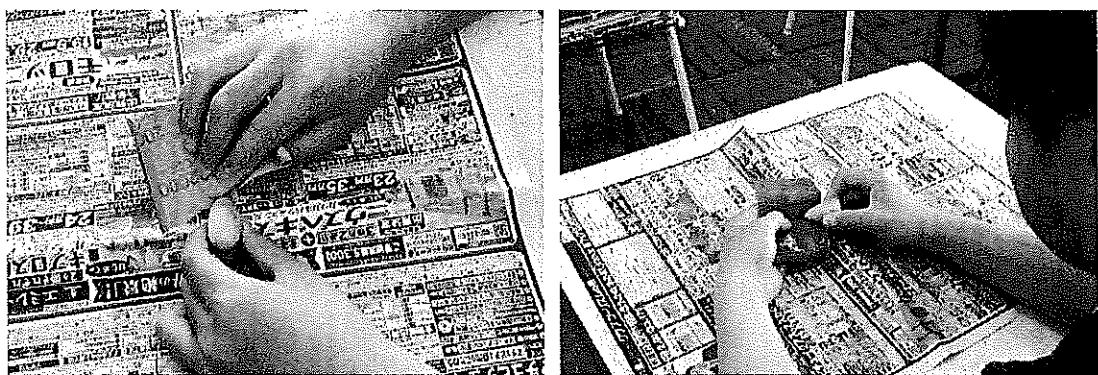


図3【持ち手デザイン】



図4【持ち手制作】



(3) 第3次 完成した印面を押し、友人の印面と持ち手を鑑賞する。

鑑賞は相互鑑賞で行った。完成した作品は、鑑賞のワークシートに押印したものと印本体を置き、友人のワークシートに作品の良いところを記入する活動形式で行った。印面の出来や持ち手の持ちやすさやなど、各自の作品の良いところを記入する際に、他の友人と鑑賞しながら、各自が感じた良いところを情報交換をしている姿がみられた。活動後にクラスの友人が書いてくれたコメントを笑顔で見ている生徒が多くみられ、その後の振り返りで、「自分では気付いていなかったところを褒められて嬉しかった」、「今回特に頑張ったところを褒められた」と書いてあったことから、新たな一面や努力に対して互いに称賛されたことに対する笑顔だと考えられる。

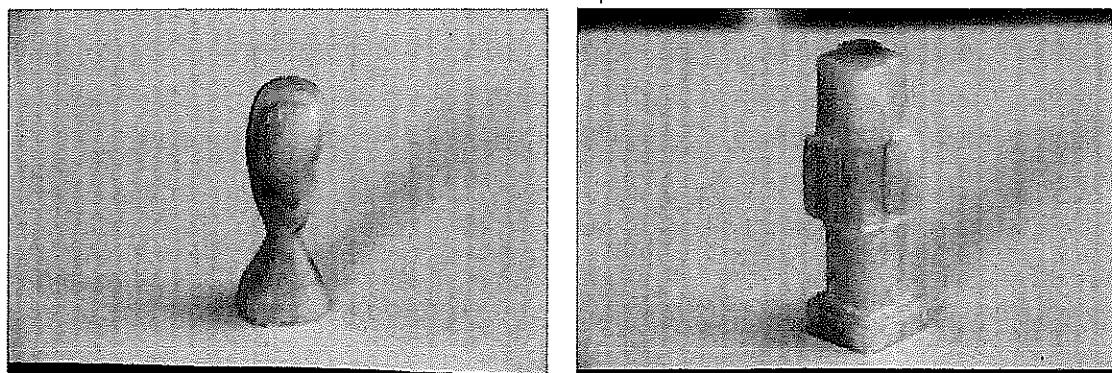


図5【完成作品】

図6【篆刻ワークシート】

III 研究の成果と課題

1 成果

印面制作では参考作品の活用や、技法に対する深い理解により、それぞれが自分の個性を生かしたアイデアを構想し、それをそのまま崩すことなく丁寧に削る作業も行うことができた。外形制作では、投影図の作成に関わる要点を提示することで、立体にしたときの形を意識した投影図を描ける生徒が多くいた。前面図や側面図の2面だけではなく、外形のアイデアによっては上面や逆の側面図を描く必要性を感じて、自主的に図を描く枠を追加して描いている生徒の姿もみられた。頭の中で考えた立体のイメージを投影図に変換することで、実際に制作する際に段取りよく作業できると思われる。

写真資料では体感することができない、実際に手に取って触覚での感覚を感じさせることができた。参考作品を鑑賞した際にグループごとに意見を出し合い、出し合った意見をもとに持ちやすいデザインなのか、装飾美に観点を置いたデザインなのかを考えることができた。生徒の意見や発見、各自が考えた投影図を発表し、情報で共有したことで、理解がより深まったように思う。

2 課題

今回の授業実践研究では、投影図の作成に関わる要点を提示して外形のアイデアを考えさせたが、頭で描いたイメージと投影図が一致していない生徒もいたので、学級全体が十分に理解するには至らなかった。投影図を描かせる際に、トレーシングペーパーなどの描いた線が透けてみえる画材を利用し、前面・側面だけではなくすべての面を描かせ、それを立体に組み立てることで、自分が描いた投影図が、考えたイメージ通りできているのかが自分で分かるようにするなどの改善を行い、より理解の深まる教材の工夫をしていきたい。

※参考資料

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術編